平成30年度　全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　皿倉　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数，理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語，算数，理科）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語A・B，算数A・B，理科）の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	無回答率も低く、全体的によくできていた。漢字の読み書きに課題があり、漢字の書き取りの定着が必要である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	文の中における主語と述語の関係に注意して文を正しく書く。目的に応じて適切な情報を捉える問題。	
	努力が必要な問題	文の中で漢字を正しく使う。相手や場面に応じて適切に敬語を使う。	

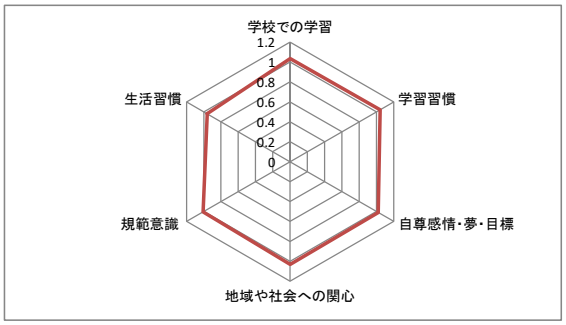
国語B	全体的な傾向や特徴など	話すこと・聞くことに関する問題は、全国平均とほぼ同じである。しかし、読むこと・書くことにおいては課題が多く、記述式の問題の正答率が低い。目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える問題において、無回答率も高く、正答率も低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。	
	努力が必要な問題	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む問題。目的や意図に応じて内容の中心を明確にして、詳しく書く。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	数と計算領域では、すべの問題で全国平均を下回っいてる。四則計算の基礎的・基本的な定着が必要である。割合や折れ線グラフなど数量関係に関する問題にも課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	角に関する問題。図形の円に関する問題。	
	努力が必要な問題	数量の関係を数直線上に表す問題。小数の除法の意味理解に関する問題。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	なぜその求め方になるのか、説明を記述させる問題において無回答率も高く、正答率も低かった。数学的考え方の定着が不十分である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、求めることができる。	
	努力が必要な問題	グラフの変化に着目して解釈し、説明を書く問題。量と測定に関する問題においてなぜその答えになるのか、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述する問題。	

理科	全体的な傾向や特徴など	主として「活用」に関する問題の正答率が低い。全体的には、無回答率は、高くなく努力はみられるが、基礎的な知識・理解や科学的な思考・表現の定着が不十分である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	回路を流れる電流の向きと大きさや、光電池に関する問題。人の腕が曲がる仕組みに関する問題。	
	努力が必要な問題	二つの異なる方法の実験結果を考察できる問題。食塩を溶かしたときの重さや食塩水を熱したときの問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

家で学校の宿題をしている児童の割合は高く、家庭で一時間以上学習している児童の割合も昨年度に比べても増えてきている。しかし、家で計画を立てて勉強している児童や家で授業の予習・復習をしている児童の割合は、全国より低い。

将来の夢や目標を持っている児童が多い。しかし、自尊感情は低い。毎日同じ時刻に寝る児童や朝食を食べている児童も全国に比べて低く、基本的な生活習慣が身に付いていない児童の割合が高い。

学校では、課題解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいた児童は多いが、友達と話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることはできていると捉えている児童は全国に比べて低い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

基本的な計算問題や漢字の書き取りを朝自習や放課後学習等で繰り返し練習することにより一層の定着を図る。また、算数科の数学的な考え方や国語科の読むこと・書くことに関する記述式の問題については、授業改善による定着を図りたい。自分の考えをもち、話し合う活動を通して自分の考えを深め、広げていく授業を展開する。1時間の中で必ず振り返りまで行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家で計画を立てて予習や復習をする習慣を付けさせるため、学校で家庭での計画を立てる必要性を児童に知らせたり、必要に応じては計画を立てる時間を確保したりする。また、学校だよりや学年だより、保護者会等を通して朝食や就寝時間の確保による基本的生活習慣の定着の必要性や家庭学習の大切さを伝えていく。